令和７年５月 17 日開催

聴っくオフ・ミーティング報告書

テーマ「障害の有無にかかわらず、暮らしやすいまちづくり」

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする「聴っくオフ・ミーティング」を開催しています。

令和 7 年 5 月 17 日は、「障害の有無にかかわらず、暮らしやすいまちづくり」をテーマに、一般公募と無作為抽出した 2000 名の区民の中から参加していただいた 17 名の方と話し合いました。

区長から

本日のテーマは「障害の有無にかかわらず、暮らしやすいまちづくり」です。今回のミーティングは、皆さんが共生社会へのイメージを持ちやすいように、様々な工夫を凝らしています。これまで生活の中で培われてきた「共生社会に役立つツール」を展示し、手にとって共用品の効用や工夫を肌で感じてもらえるようにしました。また、障害当事者等からなる「共生社会しかけ隊」にミーティングに参加してもらうなど、障害者権利条約にいう「私たちのことを私たち抜きでは決めないで」という重要な原則を大切にしています。障害のある方の目線や体験、そうではない方々の「障害者にどう対応したらいいのだろう」などの「もやもや」をどうやって解消するのか。それぞれの立場から共有し、ともに考え、これからのまちづくりに活かしていく、そういう対話になったら嬉しいです。

担当課からの説明

１ 共生社会は区の目指す将来像

区は令和３年度に、区が目指す概ね１０年後のまちの姿として「すべての人が認め合い、支え・支えられながら共生するまち」を基本構想に定めています。

また、それを築くための大きな柱として「障害者の社会参加支援の推進」・「障害特性に合わせたコミュニケーション支援の充実」を掲げました。

２ 具体的に区はどういうことをしているの？

障害者との交流の場として障害者をはじめ誰でも楽しめる「ふれあい運動会」の実施のほか、今年度は東京 2025 デフリンピック出場選手との交流会を予定しています。また、窓口での手話通訳の配置、令和５年度から遠隔窓口手話システムの導入や各課にコミュニケーションボードを配置し行政サービスの向上を図っています。

３ すぎなみオリジナル　共生社会しかけ隊

さらに、誰もが暮らしやすい「共生社会」を目指して、合理的配慮を地域に広げる取組として**共生社会しかけ隊**を行っています。本取組は障害のある方や支援者等が施設に出向き施設職員と一緒に話し合うことで、それぞれの困りごとを解決していくものです。これまでスポーツ施設の解決ヒント集などを作成しています。今日のミーティングにもオブザーバーとしてメンバーのうち６名が参加しています。

４ モヤモヤを話し合おう、モヤモヤに気付こう

令和６年の区民意向調査によると、「街で障害のある方が困っているのを見かけた際に、声をかけたことがありますか」という問いに、６割の方が声をかけたという調査結果があります。一定の割合と思いますが、あとの４割の方は「困っているのを見かけない」「声をかけたことがない」という回答でした。どうして声をかけられないか。また気づかないのか。そこに誰もが暮らしやすいまちづくりのヒントが隠れているかもしれません。お互いの〝もやもや〟がどうやったら〝すっきり〟するか解決策を一緒に考えたいと思います。

共用品等の展示

視覚障害者も
遊べるオセロ

フタにギザギザ
ある方がシャンプー

片手で切れる
トイレットペーパー

【共用品とは】
障害の有無、年齢の高低、
言語の違いなどに関わらず、
共に使えるモノ。

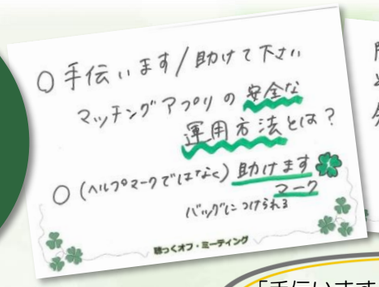
かしわ餅の葉の裏
クロワッサンの形
★違いの豆知識

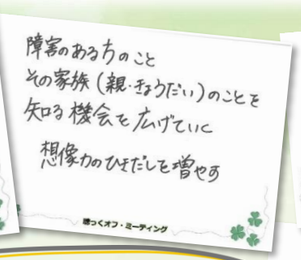
グループトーク

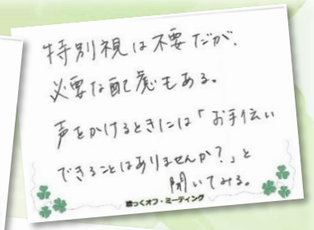
グループトークでは、５班に分かれ、
「共生社会しかけ隊」の皆さんも参加して
意見交換を行いました。

全体トーク

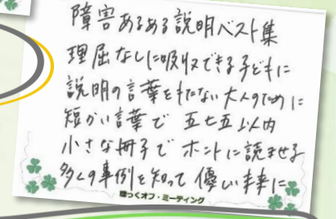
全体トークでは半円状の車座になり、
参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、
フリートークを行いました。

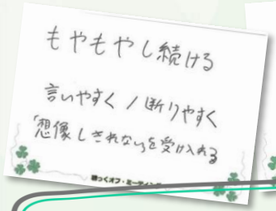


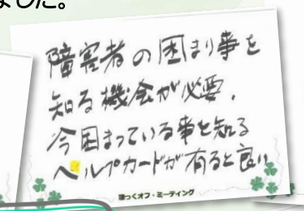


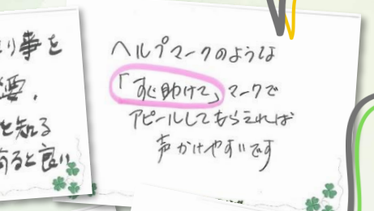


「手伝いますよ」マーク→ アプリ
→マークもアプリもいらない社会



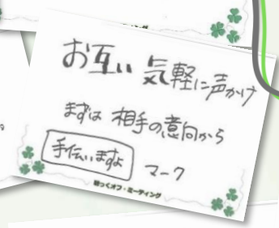


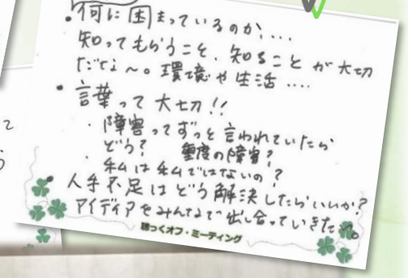


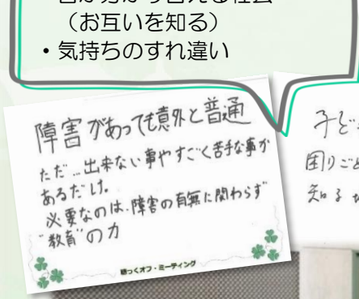


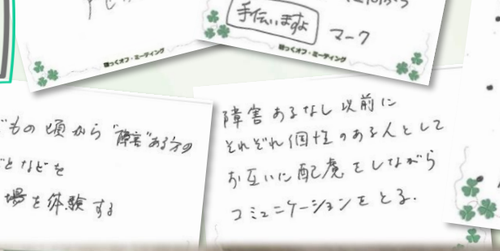
子どもの頃から
障害の有無に関わらず
一緒に過ごす!!
そのために必要なマンパワーを
増やすための予算を !!

- 障害という言葉に対する
  一人一人の考え方、捉え方
- 皆が分かり合える社会
  （お互いを知る）
- 気持ちのすれ違い









共生社会しかけ隊から

- 聴覚障害者イコール手話だけではなく筆談という方法もある。誰でもできるコミュニケーションなので気づいてほしい。
- すべての障害に対応することは難しい。ただ、障害のある無しにかかわらず、お互いが楽しく過ごせるにはどうしたらいいか話し合うことはできるし、そういう環境が大事。
- 手が悪い私にとっては、一見、便利そうに見える「自動改札」や「セルフレジ」も人の手を借りることが必要な場面となってしまう。技術の進歩から今後、このようなことは増えると思うので、人の支援が重要なことに十分フォーカスしてほしい。
- 障害者の親として、何に困っているのかを気兼ねなく話せることだけでなく、それを聴いて共感してくれる環境が大事だと改めて思いました。
- みんなの共通項として生きづらさを抱えているということ。それを分かり易く伝えることが大事。自分の困りごとを五七五で表すという提案には感心しました。これなら誰でもでき交流も深まる。
- 話し合うことでモヤモヤが晴れていくことを感じた。このような機会がそれぞれの地域社会の中にもあればいいと思いました。また交流を持つ機会の情報提供にも力を入れてほしい。

障害者施策の担当課から

皆さん本日はありがとうございました。グループトークの後、ここでお話いただく中で「お互いに」、「それぞれ」、「様々な」といった言葉が非常に多く出ていたように感じました。そういった中で皆さんのグループトークでの一人ひとりの意見を大切にしながら進めていたところが、すごく良いなと思いましたし、勉強にもなりました。施策を進めるにあたっても、そういった観点というのが大切だと思っておりますし、私たちは行政を担っておりますので、やはりそのベースになる「ユニバーサル」、「インクルーシブ」、「バリアフリー」というところは、より進めていかなければならないと思っております。いただいたお言葉、付箋で作っていただいた模造紙などは、私たちの施策の資料とさせていただきながら進めていきたいと思います。

区長の感想

このミーティングは、地域のことを一番知っている皆さんと区が対等な立場で杉並の未来を考えていく会だと思っています。そういう意味で今回は「障害者」「共生社会」というワードのもと、様々なアイデアをいただき、互いに共生社会を目指す仲間として意見交換できたのではないかと思いました。ミーティングの中で出た提案には、困った状況にある人に対しては「大丈夫？」ではなく「お手伝いできることはありますか」という声かけをしてはどうかの提案がありました。言いやすい言葉での働きかけが、地域コミニティを共生社会へと育てていく第一歩になる大事な提案だと思います。最後に、今回は「障害者」とのコミュニケーションが主題でしたが、根底には誰もが当事者である「互いのことを思いやる共生社会」の在り方が問われているのだと思います。今日いただいた意見を参考に皆さまと一緒に共生社会を進めて参ります。

令和７年５月17日　聴っくオフ・ミーティング報告書

＜開催日＞　令和７年５月17日（土）
＜参加者＞　区民17名、区長、障害者施策課長ほか

令和７年６月　編集・発行　総務部区政相談課
〒166 - 8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番１号　電話 03-3312-2111